

光葉同窓会メールマガジン

＜2025 年 9 月号＞

219 号 2025. 09. 01 配信

そろそろ秋の気配を感じる頃でしょうか。私事ですが、大学卒業時にクラス会を「長月会」と命名しました。本来の由来はさておき、夏の暑さが落ち着いた頃の再会が「長くつづきますように」との願いを込めて…。今年もまた再会の季節がやって来ました。



現在、大学は2ヶ月の長い夏季休暇を迎えています。構内は一見静かな時が流れているように感じられますが、学生達は次のステップに備えて心身共にエネルギーを蓄えている時のように思われます。実りの秋に向かうこの時期を、どうぞお健やかにお過ごしください。（常任委員 大橋きょう子）

■同窓会だより

◇ ワーキングネットワーク イベントのお知らせ

「仕事に役立つ写真の撮り方・撮られ方」

フォトグラファー松木雄一さんを講師にお招きし、撮る側・撮られる側それぞれのコツを、実技をまじえて教えていただきます。

【開催日時】2025 年 9 月 27 日（土）

【場 所】昭和女子大学 8 号館 1 階 グローバルラウンジ

【内 容】1 部 講演会 13:30～14:30

2 部 撮影会 14:30～15:30（先着 20 名 撮影は各自のスマートフォンを使用します。）

【参加費】1 部のみ参加 500 円（茶菓付き）

1 部、2 部参加 1,500 円（茶菓・撮影データ付き。データはダウンロード方式でお渡し予定。）

【締め切り】9 月 12 日（金）

2 部のみのご参加はご遠慮ください。（お申し込みは QR コードから）



◇ 生涯学習 講演会

～昨年度に引き続き、本学理事長 山崎日出男先生の講演会のご案内をいたします～

【開催日時】2025 年 10 月 4 日（土） 13:30～15:00 （13:00 受付開始）

【テーマ】「紛争と平和構築」「トランプ就任以降の動き」

【場 所】昭和女子大学 1 号館 2 階会議室 【参加費】無料

【対象者】光葉同窓会会員とその家族・在学生・本学教職員

【申込〆切】9 月 26 日（金）

【申込方法】FAX: 03-3411-4066 E-mail: dousoukai@swu.ac.jp

件名に「生涯学習講演会」本文に①氏名 ②卒年 ③卒学科 ④連絡先（日中連絡可能携帯番号）を記載し、メールまたは、FAX にて光葉同窓会事務局までお申込みください。

（申し込み用紙はございません。QR コードより光葉同窓会 HP をご覧ください。）

定員先着 30 名です。申込み後、受付完了の返信を同窓会事務局からお送りします。

【問合わせ先】昭和女子大学光葉同窓会事務局 TEL: 03-3421-7713



◇ 支部会の開催

・ 9 月 28 日（日） 山形県支部会・10 月 4 日（土） 富山県支部会

・ 10 月 5 日（日） 岐阜県支部会/佐賀県支部会/広島県支部会/福島県支部会

・ 10 月 11 日（土） 東京都合同支部総会/鹿児島県支部会・10 月 19 日（日） 山梨県支部会

- ・10月25日(土) 神奈川県支部会/埼玉県支部会・10月26日(日) 熊本県支部会/高知県支部会
- ・10月26日(日) 茨城県支部会・10月30日(木) 愛知県支部会

＊お問い合わせ 光葉同窓会事務局 03-3421-7713 E-mail: dousoukai@swu.ac.jp

10:45～16:15 (土・日・祝日除く)

■学園だより

◇ セミナーのご案内

～昭和女子大学キャリアカレッジ・ダイバーシティ推進セミナー～

【開催日時】2025年10月1日(水) 15:00～16:30 (入室開始14:45)

詳細はこちら: http://career-college.swu.ac.jp/wp-content/uploads/2025/08/1001_セミナーフライヤー.pdf

■広げよう光の葉



小松 るみ子さん

1984年 日本文学科卒業

2023年 文学研究科日本文学専攻博士前期課程修了

「AETERNITATEM COGITA (永遠を考えよ) —大学院での学び直し—」



私は私立高校の国語教員です。2019年、教員を続けながら昭和女子大学大学院に進学し、『枕草子』を研究しました。学部卒業から35年後、57歳の春です。

還暦間近になって大学院に進学したのは、古典文学を学ぶ意義を生徒に明確に示したいと思ったためです。常々私には、大学受験対策を重視するあまり、生徒たちの「古典嫌い」を誘導しているのではないかという危惧がありました。また18年3月に発布された新しい学習指導要領(国語)では、実社会での活用に主眼が置かれました。このような流れの中で、古典文学が生徒たちの実生活に繋がる存在であることを伝えるためには、私自身の研鑽が必須であると考えたのです。

高校での勤務と並行して大学院で修学するため、勤務校からは授業時間数の削減を、大学からは長期履修の許可を頂きました。長期履修とは、職業、育児、介護などの理由で標準年限での修了が困難な学生を対象に、履修期間の延長と履修期間に応じた授業料の分割納入が許される制度です。私はこの制度を利用し、許可される最長期間、4年間をかけて修了しました。

20年、日本中がCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)に見舞われ、大学院の授業はズームやポータルサイトを使ったリモート形式になりました。私の所属する中古文学領域の同学年の学生は私一人でしたので、教授と私との一对一の授業がほとんどでした。大人数の授業と異なり一对一の授業では、対面授業とズームのリモート授業との間に全く遜色がありません。このためCOVID-19が落ち着いた後も、授業や修士論文の相談などでズームを大いに活用しました。リモート授業が形作られたことは、遠隔地に住み、仕事をしながら修学を続ける私にとって好都合でした。また大学図書館の図書配送と論文複写サービスにも助けられました。COVID-19中の特別措置かもしれませんが、このサービスは、依頼した図書や論文複写が自宅に配送されるというもので、国立国会図書館に依頼した場合よりもはるかに迅速な対応でした。

ところで、表題の「AETERNITATEM COGITA」は大学1号館の入り口に刻まれたラテン語の言葉です。この「永遠を考えよ」という言葉は大学院を修了した私の指針となりました。人の一生は有限ですが、文学の中で人は永遠に生き続けます。古典文学が読み継がれているのは、時を経ても変わることのない人間の真の姿が描かれているからだと思います。生徒たちと共に作品世界を追体験し、筆者の想いを永遠に生かし続けたい、そして、先代から受け継いだ古典文学を次世代に引き継ぐ一助になりたい、そんなことを思いながら教壇に立っています。【End】